

学校教育目標		子供の笑顔があふれる幸せな学校 (松原中学校区の教育目標)		重点目標	学んだことを活かし、協働して課題解決に臨む笑顔で元気な生徒の育成 (学習意欲、思考・判断・表現力)			
評価計画と自己評価					学校関係者評価		改善計画	
重点目標	目標達成のための方策 (取組指標)	めざす生徒の姿 (成果指標)		評価	結果 (成果○と課題△)	評価	コメント	次年度における改善策
重点目標に対する評価	<重点1> 思いやりと感謝の心を持ち、互いに支え合う生徒	○ 多様な意見を大切にされた道徳の授業を行う	○ 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる生徒 ★ 生徒アンケート目標値：3.6 結果値：3.5→3.4	4	○授業中の意見交流の場面では活発な話し合いが行われていた。 ○総合的な学習の時間を中心に、福祉や地域、進路のことについて課題解決的に学習を進めることができた。 ○委員会の取組、学校行事などでは自分の役割や友達のよさを見つけ、お互いに協力して取り組む姿が見られた。また、行事後にメルシーアーチに取り組むことで具体的な言葉で感謝の気持ちを伝えることができた。 △自己概念、自己有用感が高まらなかった。自尊感情、自己肯定感は少し上昇した。	A	○学校の自己評価は適切である。 ・学習に向かう態度がよく、真剣な中にも和やかな雰囲気や教師との関係がよいことがうかがえる。 ・自己概念などを高めるためには、家庭と連携が必要。啓蒙活動の1つとして、「子供との関わり」などのPTA研修を開いてみてはどうか。 ・実生活での経験が少ない分、総合的な学習の時間で福祉や地域のことについて学べるのはありがたい。 ・学校内の掲示物も生徒達の頑張りが見えてとてもよい。	・学習指導において、生徒が他者と異なる視点から考えたり、それらをすり合わせながら一つの考えにしたりするような発表や話し合いの場を充実させる。 ・教育活動の様々な場面で、子供の話をしっかり聞き共感し尊重することで、大事な存在だということを実感させる。 ・教師による教材の提示だけでなく、思考を深めたり話し合ったりする場面などでもICTを活用する。
		○ 協働して課題解決を行うことができる授業 (教科、総合的な学習) を実施する	○ みんなで課題を立ててその解決に向けて取り組むことができる生徒 ★ 生徒アンケート目標値：3.4 結果値：3.3→3.3	4		A		
		○ 支え合うことの大切さを感じることができるような話を、朝の会や帰りの会で実施する	○ 居心地がいい (安心できる) 学級 ★ 生徒アンケート目標値：3.4 結果値：3.3→3.3	4		A		
	<重点2> 真剣に学び続け、どんな困難にも挑戦し、自己の生き方に対し、志や目標 (知・徳・体) をもって知識・技能を習得する生徒	○ 学び方の基本を徹底した授業を展開する ・学習のめあてを立てる ・自分の力で解く、学び合う ・学習をまとめ・ふり返る	○ 課題に対して、自ら考えて取り組むことができる生徒 ★ 生徒アンケート目標値：3.4 結果値：3.4→3.3 ◇ どの教科も学力検査の正答率を3ポイント以上上げる 1, 2年：4月標準学力調査 → 1月標準学力調査 3年：6月学力実態調査 → 10月学力実態調査	3	○学び方の基本を意識した授業を展開することができた。 △学習指導において、ICT活用が教師による教材の提示だけになっていることが多い。 △1年学力検査の正答率は国語と理科が上昇した。社会の正答率が低い結果であった。 △各種学力調査結果の分析し生徒の実態を職員で十分に共有できなかった。 ○毎日1ページの松原ノートを地道に続けることができ、家庭学習時間の確保につなげることができた。	A	○学校の自己評価は適切である。 ・タブレットに自分の考えを入力したものを他者と共有することで、交流活動が活発化し、協働的な学びにつなげることができている。 ・ICTについては、好事例などを参考にして教師が積極的に使いこなすことができるような研修が必要である。 ・なぜ国語と理科が上がり、なぜ社会が悪かったのか要因をしっかりと分析する必要がある。 ・生徒のSOSの声は、松原ノートが一番よい。 ・これからの子供たちには「こんなことしたんだ、できるんだ」という自己アピール (プレゼン) が堂々とできるような教育が必要ではないか。	・単元全体の目標を明確にした単元設計を行うために、講師を招聘した職員研修を実施して授業力の向上を図ることで、生徒が学習の見通しを持って授業に取り組むことができるようにする、 ・何のために勉強するのかを学ぶことができるように、卒業生や社会人の方をGTとして招聘し、キャリア教育を充実させていく。 ・各種学力調査の結果について学力向上コーディネータを中心に研究推進委員会で結果の分析を行い、学力の実態や効果的な取組等を校内研修の場で共有する。
		○ 松原ノートを活用して家庭学習に取り組む	○ 学校の授業時間以外に家庭学習に励むことのできる生徒 ★ 生徒アンケート目標値：3.1 結果値：3.0→3.2	4		A		
		○ 進学や就職、これからの社会に求められることを念頭においたキャリア教育を実施する	○ 将来の夢や目標を持っている生徒 ★ 生徒アンケート目標値：3.0 結果値：2.9→2.8	3		A		
	<重点3> 激しく変化する不透明な情勢に対応し、協働して持続可能な社会をつくる生徒	○ 学級運営の状況や課題を全教職員間で共有し、学年・学校として組織的に行う	○ 学級のみならず協力して何かやり遂げ、うれしかった経験を持つ生徒 ★ 生徒アンケート目標値：3.7 結果値：3.6→3.6	4	○みんなのスポーツ大会や合唱発表会などの行事では、各学級、各学年の状況を職員間で情報交換しながら連携を密にして進めていき、生徒に達成感を持たせることができた。 ○話し合い活動において、ペアや班など編制を工夫して行うことで、自分の考えを伝え合う活動を、年間を通して仕組むことができた。 ○みんなのクリーンアップ運動では、小学校や地域と連携して、地域を大切に作る気持ちを養うことができた。 △生徒会の活動について、担当職員の負担が大きい場面があったため、さらに軽減・分散できるように努めていく必要がある。	A	○学校の自己評価は適切である。 ・社会で生きる力を養うためにこれからもたくさん経験させてほしい。来年度からの松原中校区小中連携に期待したい。 ・それぞれの行事や活動において、生徒達が生き生きと楽しそうに協力している姿を見ることができた。また、小学生との交流行事においても年長者としての自覚を垣間見ることができ、今後もこういった取組を継続してほしい。 ・生徒会活動をより自主的・自立的にすることでやり甲斐が高まり、教師の負担軽減にも繋がると思う。	・学校行事や委員会活動を中心に、生徒達の自治意識と主体的な行動力を高めていくことができるように、生徒が考え、判断し、実行していきことができる場を増やしていく。 ・担当職員の負担を軽減することができるように、複数人体制で担当することができるように、係分担の工夫を行う。 ・地域学校協働本部を活用し、地域の方々、PTA、各小学校との連携しながら教育活動を進めていく。
		○ 授業において、生徒間で話し合う活動を計画的に実施する	○ 授業中の話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えることができる生徒 ★ 生徒アンケート目標値：3.5 結果値：3.4→3.4	4		A		
		○ 生徒会活動を積極的に支援し、自主的な実践力を高めることができるようにする	○ 友だちの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできる生徒 ★ 生徒アンケート目標値：3.4 結果値：3.4→3.4	4		A		
いじめ防止	いじめに気づき、いじめをしない、いじめを許さない生徒【絆づくり】	○ 定期的なアンケートの実施と丁寧な様相観察を実施する	○ いじめはいけないといえる生徒 ★ 生徒アンケート目標値：4.0 結果値：3.8	4	○定期的なアンケートや臨時のアンケート、教育相談の実施によりいじめの早期発見、早期対応ができた。 ○担任を中心にSCやSSW、関係機関と連携して、いじめに対する早期対応、未然防止に努めることができた。 △いじめの認知など、いじめに対する職員の見識を高め、学校全体でいじめを見逃さない風土をつくる。	A	○学校の自己評価は適切である。 ・SCやSSWを活用するなど校内組織と関係機関の連携がうまくできていることが、いじめの未然防止や早期解決につながっている。 ・引き続き人権教育も充実させてほしい。 ・常に相談し合える職員集団であることが生徒のわずかな変化をキャッチすることに繋がると考える。	・若い先生が増えてきた現状もあるため、年度初めにいじめの定義や構造を確認し、いじめを見逃さない風土をつくる。 ・いじめはいけないと全員が思うことができるように、朝の会、帰りの会や学期初めなど継続して教師が話を行うことで生徒、教職員の人権意識を高める。
		○ 共感的な生徒指導を推進し、年3回の教育相談を行う	○ 相談できる教師がいる ★ 生徒アンケート目標値：3.3 結果値：3.2	4		A		
		○ いじめを認知した際は、いじめ対策委員会での情報共有のもとに組織的な対応を行う	○ いじめの認知件数の増加および解消 ★ 認知したいじめの解消率：100% 令和6年度認知件数10件のうち10件解消 (見守り継続含む)	3		A		
不登校対策	元気に登校し、笑顔で下校する生徒【居場所づくり】	○ 生徒の頑張りを捉え、積極的に生徒のことを褒める	○ 自分の良いところに気づくことができる生徒 ★ 生徒アンケート目標値：3.2 結果値：3.1→3.1	4	○つながりを切らさないように欠席した生徒への連絡や声掛けを、担任だけでなく学年全体で丁寧に行うことができた。 ○生徒指導主事や生徒支援加配教員を中心に生徒への明るい声掛けを進めることで、学校全体の安心・安全な風土をつくることができた。 △学校に登校できない要因がより複雑化しており、不登校生徒の数が増加した。	A	○学校の自己評価は適切である。 ・不登校生徒が増加している原因の把握ができていればよい。 ・積極的な生徒指導を進めて、学校全体の雰囲気を良くしているように見える。 ・保護者との連携だけでなくSCやSSW、地域の力(民生委員さんなど)を活用して少しでもいい方向にしていけるといい	・「学校で学ぶ」意味を今一度、再確認し不登校生徒をうまな環境づくりに取り組む。 ・SSWやSC、支援加配教員の役割を生徒たちにも伝え、集会で支援についての話を行う。 ・家庭との連携をさらに充実させ、ハートフルフームや大牟田市教育支援センターなどを活用し、個に応じた学習の場を確実に提供する。
		○ 「福岡アクション3」による不登校未然防止を徹底する	○ 学校への登校意欲をもつ生徒 ★ 生徒アンケート目標値：3.3 結果値：3.3	4		A		
		○ 生徒指導委員会で報告し全体で共有して、指導や支援に生かす	○ 不登校生徒の出現率 (1月現在) ★ 目標値：11%以下 結果値：11.9%	3		A		
働き方改革	働き方改革の指針に沿った取組	① 定時退校日の確実な実施 (毎週水曜日) ② 部活動休養日の確実な実施 (毎週水と土日のうち1日以上、長期休暇中の一定期間、学校閉庁日) ③ 学校閉庁日、閉庁時間の設定、取組 (8月13~16日・12月26日~1月3日、閉庁時間を20時) ★ 実績目標値 <★超過勤務月平均4.5時間以内>	3	○部活動休養日については全職員が意識して実施することができた。 △定時退校日は設定しているが、時期によっては実践することができないことがあった。 △行事等のスリム化をさらに進めていくことが必要である。	A	○学校の自己評価は適切である。 ・働きやすさと働き甲斐のある働き方改革を進めていく必要がある。 ・働き方改革で教育に影響が出るのは避けなければならない。職員を増やすしか手立てはないのではないか。	・4月、5月の働き方について「これは本当に必要か」を考え、業務の洗い出しができるように、何に時間がかかっているのかを記録する。 ・定時退校日、部活動休養日を適切に組み、実施する。	

◇ 評価について 【自己評価】 4：目標達成 (90%以上) 3：ほぼ達成 (70%~90%) 2：もう少し (60%~70%) 1：できていない (60%未満)
【学校関係者評価】 A：自己評価は適切である B：自己評価は上方修正すべきである C：自己評価は下方修正すべきである